



# 東京の会通信

No.269

2016年11月1日号  
(隔月1日発行)

発行：骨髄バンクを支援する  
東京の会

〒162-0065 東京都新宿区

住吉町10-8 第1菊池ビル302号

TEL：03-3354-6377

(FAX兼用)



<http://www.marrow.or.jp/tokyo/>

e-mail:marrow\_tokyo@yahoo.co.jp

定価 100 円

## ドナー支援制度小平市で実現、 東京都11自治体に拡大

東京都小平市でドナー支援制度が実現しました。東京の会の小平市在住の会員が昨年からの働きかけを行い、平成28年度9月議会で補正予算が成立し、10月より実現することになりました。東京都保健医療政策区市町村包括補助事業との連動で、都と市がそれぞれ半額ずつを負担するものです。小平市で実現したことにより東京では11自治体となりました。

一昨年9月に東京の会として、東京都議会に「ドナー支援制度の策定」の請願を行い、採択されたことをきっかけとし、自治体や議会要請を行い、地道に行動を行ってきたことが現在の成果につながっています。しかし、まだ東京全自治体の2割弱にすぎません。

今年度東京の会は、4月に全自治体に対して聞き取り調査を行い実施10自治体を確認し、6月の東京の会総会後に未実施52自治体に対して要請書を送付し、来年度（平成29年度）からの実施を要請いたしました。

現在のところ（10月7日現在）、未実施8自治体より返答があり、そのほとんどは「検討している」「今後、

近隣や他自治体の動向を調べて検討する」と、前向きな姿勢がうかがえましたが、聞き取りや要請の結果「法律の改正などが必要なので、国が責任を持って制度を作るべき」と表明した自治体もありました。他にも電話で問い合わせをしてきた自治体もあり、直接やり取りしお互いの情報を交換する中で、前向きに検討していることが確認できた自治体もありました。

平成23年、新潟県加茂市から始まった骨髄移植ドナー支援制度は、東京でも稲城市1自治体にとどまっていたのですが、東京の会の都議会への請願がきっかけとなり、昨年、今年と少なくとも自治体で実現ないしは検討が開始されています。

東京の会の皆さん、地道で目立つ行動でもありませんが、制度創設の運動は、行政や世論をジワリと動かしていることは紛れもないことです。実施自治体と未実施自治体では新たな地域格差も生じており、この格差の解消のためにも平成29年度「必ず全自治体で実現」を図らなければなりません。（代表 三瓶和義）

### 日本骨髄バンクの登録患者と検査済登録ドナー (平成28年9月末日現在)

	ドナー(全国)	ドナー(東京)	患者(全国)
登録者累計	465,255	58,256	49,142
8-9月登録分	5,058	503	526
8-9月抹消数	3,273	377	—
実質登録増	1,785	126	—

### 患者とドナー登録・適合状況(9月末日現在)

ドナー登録受付者数(累計)	680,102人
ドナー登録抹消者数(累計)	214,847人
HLA適合報告ドナー数(累計)	266,723人
実質登録患者実数(現在)	3,367人(国内1,448人)
HLA適合患者数(累計)	39,259人(患者累計数の79.9%)
非血縁移植実施数	19,950例(8-9月実施203例)

患者家族電話相談  
白血病フリーダイヤル

やまいこくふく  
**0120-81-5929**  
毎週土曜日10:00～16:00

※第2・4土曜日は血液専門  
医も相談に応じます。

※医師に言えない悩み事など  
もどうぞ。

# 東京都へ来年度予算要望と都議会各政党へ要請

東京の会は9月3日、都議会各政党、東京都知事、教育庁に対して、平成29年度東京都予算に対する三点の要望を行いました。東京の会から9名が参加しました。

都議会公明党、日本共産党都議団、都議会民進党への要請では、各党ともに好意的な応対をしていただきました。自治体での取り組みが始まっていますので、各自自治体の議員団でも取り組んでいただけるよう要請しました。

都知事への要請については、所轄である疾病対策課の担当者への要請となりました。担当者によりますと、東京都と各自自治体は上下関係にはないということで、都から自治体への働きかけには機会あるごとに行っても一定の限界があることもわかりました。

教育庁では、担当者不在のため、要望書を提出するにとどまりました。

当日、東京都、教育庁、各政党に提出した要望事項は次のとおりです。



東京の会の強力メンバー

## 1.東京都全区市町村骨髄移植ドナー支援制度導入推進について

①平成29年度より東京都のすべての自治体において、骨髄移植ドナーへの支援制度を実現するため、東京都が自治体に対して指導・支援を行うこと。

②未実施自治体に対して、制度導入のための働きかけ等を行っていただくこと。

## 2.都内献血ルームへの骨髄バンク登録説明員の配置について

①東京都内の日本赤十字社献血ルーム主要ルーム（3か所程度）に期間を定め（2年程度）、常駐の骨髄バンクドナー登録説明員を配置し、東京都における若年者を主とする登録者数の大幅な増加を図ること。

②説明員には新たに雇用創出基金事業として失業者を雇用し、必要な教育を実施した上で対象献血ルームに配置すること。

③説明員の雇用を行う事業体は、公益財団法人日本骨髄バンクまたは日本赤十字社東京都支部（東京都赤十字血液センター）とすること。

## 3.都内小・中・高校における骨髄バンク啓発普及について

①都内の公立小学校・中学校・高等学校の生徒に骨髄バンク関連パンフレット等を配布し、骨髄バンクへの理解と将来のドナー登録を考える機会とすること。

②パンフレット等配布先の学校において、骨髄バンクや骨髄提供について学習する特別授業や講演会の開催を東京都として推進すること。

## 東京の会 「11月、12月定例会」 のお知らせ

11月19日（土）、12月17日（土）午後5時30分より

※12月は第3土曜日の開催となりますのでご注意ください。

会場：全労済東京会館3階会議室

※JR新宿駅西口下車7分（新宿区西新宿7-20-8）

※地下鉄丸の内線西新宿駅下車1番出口徒歩2分

青梅街道新宿警察署向かい・「キャン☆ドウ」角入り右側

※12/17は定例会後に忘年会を行います！

※1月定例会予定・1月28日（土）午後5時30分より

## 1月会報発送

## 「おりおり」のお知らせ

12月の「おりおり」はありません！

会報が隔月刊となったため、発送作業も奇数月のみとなります。

1月7日（土）10時00分より

※午後は品川運輸さんが新年会で使用されますので、おりおりは午前中のみです。

場所：品川運輸・4階会議室（品川区東大井2-1-8）

JR大井町駅徒歩8分・京浜急行鮫洲駅徒歩2分

※今お読みになっている「東京の会通信」を約500部折って封入して発送します。簡単な誰にでも出来る作業です。いつも人手が足りません。どうかご協力を。

※2017年3月「おりおり」予定・3月4日（土）13時00分より

新しい方大歓迎です。お気軽においで下さい。お待ちしております。

# 新宿西口にお祭りの屋台が並び

～熊野神社例大祭で骨髓バンクPR～

9月17、18日、新宿十二社(じゅうにそう)熊野神社の例大祭が執り行われました。新宿西口界隈がお祭りの提灯に飾られて夜は明りが灯り、幻想的な風景に一変します。新宿西口小田急ハルク前の歩道上に、お祭りの出店のように屋台が並び、飲食スペースが出来上がります。

毎年この場所は、新宿西口陸商店会の皆さんがお祭りを盛り上げるためのイベント会場になっています。屋台ではたこ焼き、焼きそば、焼き鳥、チヂミに、ビールや焼酎、日本酒が販売されます。西口陸商店会のお揃いのはっぴを着た元気の良いメンバーの皆さんが、炭火で顔を真っ赤にしながらかき流して焼き続け、B級グルメの香りが充満します。

陸の皆さんは昼から夜8時頃まで、大きな声を出してお客様を呼び込んで、ビールや焼酎を飲みながらお祭りの景気を付けるために焼き続けるのですが、こちらもそのご相伴に与りながら、出店前で足を止めたお客様にGift of Lifeとキティちゃんティッシュを配り、骨髓バンクをPRします。

東京の会は、自分でわたあめを、まあく作ってもらうコーナーを担当しました。わたあめ機の中心にザラメを入れると、あ〜ら不思議、わた状のふわふわがどん



わたあめ機は子供たちに大人気

どん出てきて、上手く割り箸に巻き付ければ、あのわたあめが完成です。でもこれがなかなか難しく、大きなわたあめの完成率は30%くらいでしょうか？でもみんなわたあめを作りたいくて、作成料100円なりを東京の会の募金箱に寄付してくださいませ。子供は無料で体験できるのですが、大人も十分に楽しめ、大きなわたあめ完成にむけて真剣に割り箸をクルクルと回していました。

18日にはお神輿(みこし)が沢山出ます。神輿には神様が乗り移って、1年に1度熊野神社の氏子を観て回る風習で、十三の氏子の町会(陸)がお神輿を担ぎ熊野神社まで練り歩きます。十二社の神輿は「千鳥担ぎ」と言われる、神輿を捧げ持って膝を曲げずに千鳥足でチョイチョイ進む担ぎ方です。お祭りの出店の前にも新宿西口陸の神輿が、大勢の担ぎ手と一緒に回って来ました。大歓声と拍手の中、神輿はそのまま駅前ロータリーへ出て行って、そこから熊野神社目指して担いでいかれました。

今回は2日間で500枚のチラシとティッシュを配りました。募金箱以外にも、新宿西口陸商店会の皆さんからご寄付もいただきました。大変ありがとうございました。今後も、東京の会へのご協力を引き続きお願いいたします。(若木換)



ハルク前にやってきたお神輿

## 東京の会10周年記念出版

# 『もう一人の私』

患者とドナーからのメッセージを中心に、骨髓バンクの10年を東京の会通信の視点でつづる評判の1冊。

本屋さんでは取り扱っていません。

あなたもお読みください。



お申し込みは

東京の会へ

売価：1500円

送料：300円

10冊で12,000円(送料込)

# 新鮮な野菜と果物が大人気！

～しながわ宿場まつりでチャリティバザー～

9月の最終日曜日は、毎年恒例の「しながわ宿場まつり」。今年は9月25日に開催されました。東海道五十三次の最初の宿場・品川宿があった、旧東海道北品川の八山から南品川の青物横丁までが、「しながわ宿場まつり」の会場です。

2kmの沿道には、商店会の出店やお茶屋が並び、屋台で焼く焼きそばやたこ焼きの良い香りが漂います。昼からは江戸時代の風俗仮装(お姫様・侍・忍者・腰元・岡っ引きなどなど)を着た人たちと地元のプラスバンドやダンスチームがパレードします。品川区長が水戸黄門に扮したり、人気アナウンサーが「一日警察署長」として婦警の制服を着てパレードに参加したりします。

パレードのゴールは青物横丁の「品川寺(ほんせんじ)」。ここは、全国協議会会長で真言宗醍醐寺派座主の仲田順和氏が、かつて住職を務めておられたお寺であり、当日は境内で「品川寺火渡り荒行」が執り行われます。念仏を唱えながらたき火の炎の中を修行僧が次々と渡っていきます。炎が消えて熾火(おきび)になると、一般の希望者が裸足でその上を渡ります。無病息災を願うのイベントです。

東京の会では、「東京マリンロータリークラブ」の皆さんが、沿道でバザーを行うお手伝いとして、1994年から毎年このお祭りに参加しています。もう20年以上も続いている「ピアノ三重奏コンサート」同様、東京



の会の秋の風物詩となっています。現在では、「東京港南マリンロータリークラブ」の皆さんに引継がれており、新鮮な野菜や果物、メンバーからのバザー用品がテントに並びます。

午前10時の開始時間を待たずして、品物を並べたそばから買い手がつき、テントの前は人だかりができました。初めは山のように積んでいたリンゴ・なし・巨峰・マスカット・バナナやピーマン・ジャガイモなどが、街道を歩く大勢の人たちによって買われていきます。ロータリークラブのメンバーが大きなトラックで長野県松川まで仕入れに行った野菜や果物ですから味は抜群です。リンゴやなしを試食してもらおうと、「あらおいしい！」と買ってくれます。また今年は、山梨の牧丘より日本一の巨峰を仕入れ、こちらも「まあ甘〜い！」と手に取ってくれました。午後4時には完売して、みんなで拍手喝采、記念写真を撮りました。

その後は、「東京港南マリンロータリークラブ」の皆さんと一緒に品川寺で打ち上げ、本日の売り上げを確認して、仕入れを引いた残りを東京の会に寄付としていただけるというありがたいお申し出に、参加者全員で感謝しました。その後、美味しいお寺のおそばをいただきました。今後も、この「しながわ宿場まつり」に、東京の会として参加し続ける事をお約束して、無事に一日が終了しました。皆さん、お疲れ様でした。

(若木換)



【お詫びと訂正】前号(9月号・No.268)の「しながわ宿場まつり」の告知記事で、誤りがありました。タイトルで「9月28日(日)開催！」と記載しましたが、開催日は「9月25日(日)」の誤りでした。お詫びして訂正させていただきます。

## 東京ドナー登録会予定(11月・12月)

11/11(金) 日本大学法学部(千代田区)

12/10(土) 有楽町献血ルーム(千代田区)

11/29(火) 森永プラザビル1階正面玄関前(港区)

## 「おかげさま」をつないでいきたい

高木 暁子さん

ドナーに選定されてから、「いつ骨髓バンクに登録したの?」と何人もの人に聞かれました。答えは「さあ、覚えてない」。母が骨髓バンクでボランティアをしており、何度かイベントでの登録のお願いの声かけを手伝いに行ったことがあったので、その時に登録したような記憶がうっすらあるような。滅多に選ばれることのないもののだとも思っていましたので、お願いの声かけをするのに自分が登録していないのもおかしいか…くらいの軽い気持ちでの登録だったのだらうと思います。

はじめに骨髓バンクから封書が来たときには「選ばれちゃった」とくじ引きで当たったくらいに思っていました。仕事の休みも取りづらいし大丈夫かなあとなど、患者さんのことを考えるというより、自分の都合しか考えていませんでした。それでも、自分から断るという選択肢はありませんでしたので、コーディネートを進めてもらいました。選定保留となり、その後、コーディネートそのものが終了となりました。深く考えることもなくコーディネートを進めてもらったことから、ドナーに選定されなかったことにも、終了したことにも、特別な想いはありませんでした。ちょっと変わった出来事のひとつでした。

約半年後、今度はコーディネーターさんからの直接の電話で、また候補者に選ばれたとの連絡をいただきました。その半年の間に友人を亡くしたり、新しい命に出会ったりしたこともあり、同じ年に二度も選ばれたことに使命感のようなものを感じました。

はじめに候補者に選ばれた時よりも、仕事はむしろ忙しくなっていました。やはり断るという選択肢はありません。むしろ半年前とは違い、ぜひ提供したいという気持ちでした。候補者の中から選定された後は、最終同意の前に採取日が決まるという速さでのコーディネートとなりました。そのこともあり、忙しいからってどうこう言っている場合ではない、何とかなる、何とかするという気持ちで準備期間を過ごしました。

それでも、患者さんへの想いだけで提供したわけではありませんでした。やはり自分のことを考えていました。私は医療関係の仕事をしています。

しかし、小学1年の時に肺炎で入院して以降、大きな病気や怪我をしたことがありませんでした。自分が担当する患者さんの気持ちを知るためにも、こんなチャンスはありません。患者体験だと思っただけの入院でした。

そのせいか、不安からの緊張感というのはほとんどありませんでした。どちらかという楽しんでいて、不安を感じている暇がなかったのかもしれない。手術前の浣腸、術後の採取部の痛み、そして点滴も尿道カテーテルも全ての体験が私の肥やしになる。そんなふうを考え、どこかで自分を客観視していたように思います。患者さんやご家族にとっては、私のような気持ちで手術に臨むことは不謹慎だったかと思えます。それでも、私にとって今回の入院・手術は本当に貴重な体験となりました。

結果的には最も仕事が忙しいタイミングでの入院となり、今振り返るとあの忙しさの中で、よく体調を崩さずに提供の日を迎えられたと思います。子供のころから、学校や部活が休みになると体調を崩していたのですが、提供を終え、退院から約1週間後、仕事の山も越えたら体調を崩しました。仕事には支障のない程度でしたが、変わってないなあと自分で笑ってしまいました。しかも、ドナーに選定されてからの自分が、どれほど気を張りつめて過ごしていたのかということに、それまで気づいていなかったのですから。

私が一人の患者さんとそのご家族を救う手助けができていたら嬉しいです。これは、このような機会を与えていただいた患者さんやコーディネーターさん、そして、私を支え、応援してくれた家族・友人、意思を尊重してくれた職場の上司・同僚のお蔭だと思います。この体験で得たものを自身の肥やしとして、この「おかげさま」をもっともっと、つないでいけたらと思います。

## 献血ルームドナー登録推進活動の報告

東京の会では献血ルームでドナー登録推進活動を行っています。今年度は5月、6月、7月、9月、10月と今までに5回行いました。

活動参加メンバーの年齢が高くなってきている中、7月と9月は暑い時期でしたので、お昼からの参加や早帰りなどで個々の活動時間は少し短くするよう調整しました。それでも参加者みんなで交代しながら、10時30分から16時30分まで途切れることなくルーム内でのドナー登録説明と外での献血の呼びかけを行いました。

9月はイベントが多く、当初予定の17日から10日に変更して、説明員の人数を確保して行いました。今年度の累計ドナー登録者数は82名です。

今年度はあと2回活動を予定しています。献血ルームへの来場者が増えれば、ドナー登録をしてくださる人も増える可能性があるため、献血を呼びかける広報活動もドナー登録説明と並行して力を入れています。

年間目標140名を達成するには、さらに献血ルームとの協力関係を強くして、説明員のスキルも上げて行く努力が必要と考えています。(松下倫子)

今後の予定

2016年12月10日(土) 有楽町献血ルーム

2017年2月18日(土) 新宿東口献血ルーム

	献血者数	ドナー登録者数	活動参加者数
5月21日(土) 新宿東口献血ルーム	144	18	5
6月11日(土) 有楽町献血ルーム	215	17	8
7月23日(土) 新宿東口献血ルーム	136	18	7
9月10日(土) 有楽町献血ルーム	198	15	9
10月22日(土) 有楽町献血ルーム	136	14	8

## 骨髄バンクが設立25周年

～全国大会に参加しました～

骨髄バンク設立25周年記念全国大会が9月17日に慶應義塾大学日吉キャンパスで開催されました。

第1部の式典では、感謝状贈呈と、副理事長の小寺先生による年齢別ドナー登録件数の実態・国際協力の現状などの事業報告がありました。

第2部「iPS細胞の現状について」では、山中伸弥教授によるビデオメッセージに続いて、京都大学iPS細胞研究所中畑龍俊先生による講演が行われました。その中では、iPS細胞ストック事業に対する骨髄バンク新規ドナー登録者への協力依頼についてお話がありました。

第3部「造血幹細胞移植の現場から」では、私がお

世話になっている慶應病院の血液内科診療部長の岡本真一郎先生と、退院後も支援を頂いている近藤咲子看護師長より、日本骨髄バンク発足当時の様子と、みんなで支える医療について優しく温かいお話を聴かせて頂きました。

第4部「2万人のありがとう」は浅野史郎さんの司会で、「恩返しプロジェクト」の呼びかけや、移植経験者と提供ドナーによる「ありがとうトーク」、そしてお互いの気持ちを綴ったメッセージパネルの交換が行われました。このあたりからわたくしは感極まって、写真を撮ることも正常に出来ませんでした。

閉会のあいさつは、血液情報広場つばさの橋本明子理事長でした。橋本さんは「30年前にこんな出会いが、まさかあるとは思いませんでした」とお話しされ、ステージに立つドナーさんとレシピエントさんが握手を交わすシーンに、深く感銘を受けました。

わたくしは2009年の春に骨髄バンクを介して、非血縁者様による骨髄移植の提供に授かり、もう一度生きることが出来ました。ドナーさんの決意には溢れるほどの感謝が常にあります。不安でやりきれない294日間を寄り添って下さった人々と、移植後にめぐり会えた大勢の方々と一緒に豊かな毎日を生きて行きます。

(鳥羽雅行)



# みんなちがって みんないい

～とっておきの音楽祭に参加～

10月1日に町田市の市庁舎跡地、町田シバヒロで「とっておきの音楽祭 in Machida」が開催されました。1974年にアメリカで始まった「Very Special Arts Festival」は、その後世界各地で同様のイベントが開催され、日本では2001年に仙台で第1回「とっておきの音楽祭」が行われたのを最初に全国16箇所以上に広がっています。コンセプトは「みんなちがって みんないい」。障害のある人もない人も一緒に音楽を楽しみ、音楽の力で「心のバリアフリー」を目指す音楽祭です。

参加者は思い思いの演奏・歌声・ダンスなど様々な「チカラ」を表現。次々にライブステージが演奏され、世代も生活も異なる観客は芝生の上で、それぞれ歌い、踊り、走り廻ったり寝転んだりと 欲びに満たされました。

この会場で東京の会は、実行委員の岩崎様のご好意により「骨髄バンクドナー登録説明会」に会場を提供して頂きました。普及啓発活動 Gift of Lifeとキティちゃんティッシュを配布していると、「骨髄バンクに登録しますよ」と嬉しいエールも頂きました。岩崎様には心より感謝申し上げます。

そして大切な合い言葉「みんなちがって みんないい」のとおり、これからも障害のある人ない人の交流がごく自然に深く根付き、この音楽祭も全国各地で開催されることを願ってやみません。(鳥羽雅行)



今回お世話になった岩崎さん(右)

## ●岩崎さんと東京の会の出会い

東京の会の働きかけにより、昨年度より東京都がドナー支援制度を自治体補助金事業の一つに加えました。これを有効にするには各市町村で制度化しなければなりません。東京の会では各自治体での制度化を求める活動を展開しており、私も自分の住む町田市に請願書を出しました。この時に一緒に町田市に行ってきたのが、東京町田ロータリークラブの会員さんだった岩崎繁樹さんです。

岩崎さんの第一印象は笑顔の素敵な方でした。その後、11月の骨髄バンクイベント「SNOW BANK PAY IT FORWARD」にも来られ、『バラのかおりのコンサート』では移植を受けた元患者としてミニシンポで語っていただきました。岩崎さんと大橋一三さんのミニシンポは会場の方々に多くの感動の涙を誘いました。

このような経緯で岩崎さんは東京の会の活動にご協力下さって、今回町田市で開かれた『とっておきの音楽祭in Macida』でも骨髄バンクのブースを用意いただいたのです。

岩崎さん、本当にありがとうございました。

(中谷光子)



出演者も観客も、思い思いに

## 心のこもったご寄付ありがとうございました。(2016.9.16～10.15)

南川英則さん 5,000円／衣川千代子さん 3,000円／和泉屋正敏さん 5,000円／小野澤恵美子さん 2,000円  
新宿西口陸商店会さん 10,000円／熊野神社例大祭募金箱10,327円／匿名 5,000円／宮坂祐輔さん 7,000円  
高橋いずみさん 2,000円／徳田ひろみさん 2,000円

お寄せいただいたご寄付のうち、会費未納の会員からは会費(年3,000円)を差し引いて掲載させていただきました。

# 編集者 雑記



▼今年のノーベル医学・生理学賞に、大隅良典東京工業大学名誉教授の「オートファジー（自食作用）の仕組みの発見」が選ばれました。今回は日本人の他部門の受賞はなく、日本人としては25人目の受賞です。

▼オートファジーとは細胞が自分自身のたんぱく質を分解して再利用する仕組みで、酵母のような単細胞生物から哺乳類のような高等生物、また植物にも共通する生命現象です。大隅先生は、単細胞生物の酵母の液胞に注目し、光学顕微鏡で地道に観察を続けられた結果、オートファジー現象に出遭うことができたのです。

▼「人のやらないことをやろうという興味から酵母の液胞の研究を始めた。必ずがんにつながるとか、寿命の問題につながると確信していたわけではない。基礎科学の重要性を強調したい。」と先生はコメントされています。併せて現代社会が短期に成果を求めめる傾向が強くなり、将来を担うべき若い人達が、なかなか結果の出ない地道な研究テーマに取り組まないことを懸念されています。我が国の基礎科学が衰退していくのではないかと心配されているのです。

▼我が国の代表的な大企業で、利益を水増ししたり、自動車の燃料効率の数値を偽ったりした事件が続きました。これもまた、任期中に経営成績を上げようという経営者の焦りが、トップとしては絶対やってはいけない行為、架空の売り上げをたて、利益を水増ししたり、自動車の燃費を実際より良い数値を公表したのです。自然科学の分野でも世紀の大発見と思われた細胞初期化に係る論文が撤回される事件もありました。

▼社会がこのような焦燥感に満ちている状態の中で、いつトンネルを抜けるか分からない先の長い研究テーマに取り組むことはとても勇気のいることかもしれません。しかし大きな建築物にはしっかりした基礎が必要のように、科学の進歩にも基礎科学の構築が不可欠

なのだ。大隅先生は警鐘を鳴らしておられるのです。

▼最近の日本赤十字社の献血者年齢別分布をみると、20歳代の若年者が減少しているのが気になります。これは日本骨髄バンクのドナー登録者の年齢分布にも共通しています。原因は雇用の非正規化問題、収入格差問題とかいろいろあると思われそうですが、若い人達の社会に対する不信感とそれに基づく不安感が深層にあり、社会全体が他人のことを考える余裕がなくなってきたことが原因ではないでしょうか。

▼血液難病の一つ白血病は造血幹細胞のがんであり、また再生不良性貧血は自己免疫疾患の一つです。いずれもiPS細胞の応用技術やオートファジー研究の進展により、新しい局面を迎えることが期待されています。しかし、それは今日明日というわけではなく、これからも地道な研究の積み重ねが必要で、それまでは既存の医療システムの中で治療法や薬剤を改良充実して患者を支援していく必要があるのです。そのために、骨髄バンクの登録者数を少しでも増やすこと、特に20歳から30歳までの若年者の登録者数を増やし、55歳の登録上限年齢に達して抹消される人数が、新規登録者数を上回り、登録者総数が減少に転ずることのないよう骨髄バンクを維持することが必要なのです。

▼若い人達が将来を信じ、いろいろな分野で息の長い基礎づくりの仕事に取り組んでいけるよう、人がお互いに他人に気配りして行動するような社会環境を再構築することが必要です。企業の労働環境の改善、ガバナンス・コンプライアンスの強化、行政の事業計画の透明性、事業発注の公正性、経費の合理的節減、国会・地方自治体議会議員の歳費削減、政務活動費の見直し・不正支出防止をお願いしたいのです。これらが実現して人々の社会に対する信頼を取り戻すことができるのです。国全体が不信感と焦燥感にかられて、短期の利益と結果ばかり追い求めていけば、この国の文化は衰退し、数十年後に独創的な理論や研究成果が出ることは期待できません。iPS細胞、オートファジーの血液難病治療への応用研究が進展し、一日も早く適用されるよう願う次第です(k)

ご寄付と会費の納入、そして絵はがきや書籍・テレホンカードの購入は郵便振替にてお願いいたします。  
皆様からの善意をお待ちしております。

## ボランティアの運動にも資金が必要です。 東京の会に活動資金のカンパを！

郵便振替口座番号 **00100-1-555195**  
他銀行から振込みの場合 ゆうちょ銀行(9900) / ○一八支店(018) 普通口座No.4180512  
加入者名義 **公的骨髄バンクを支援する東京の会**